



国際交流員ウィルペルトのコラム

ミュージアムの長い夜 Die lange Nacht der Museen (ディーランゲナハトデアムゼン)



最近、週末に美術館に行くことがあって、「ミュージアムの長い夜」というイベントのことを思い出しました。学生の時は友達と一緒によく行きましたが、調べたら東京や日本にこのようなイベントはないらしいので、ご紹介させていただきます。

ドイツのいくつかの都市で、年に1・2回、「ミュージアム（博物館・美術館）の長い夜」というイベントが開催されます。



夜のベルリン自然史博物館 (c) Kulturprojekte Berlin, Oana Popa

初めて開催されたのは1997年2月のベルリンでした。イベント中は、18館のミュージアムが、2,000円前後の共通の入場券で入場できるようになりました。その中には、自然史博物館、ドイツ歴史博物館、ベルリン・ギャラリー、グロピウス・バウ、シャルロッテンブルク宮殿などが名を連ね、各ミュージアムの間を簡単に行き来するために、無料のシャトルバスも増便されました。また、普通、美術館や博物館が開いているのは午後6時ぐらいまでなのですが、その日は夜の0時、施設によっては朝3時まで開館していました。

イベントをより魅力的にするために、特別なツアーや劇場公演、音楽の演奏が企画され、特別にミュージアムの中で飲食できる前菜やドリンクが用意されました。イベントは大成功で、来場者は3万人を超えたと発表されました。

このイベントを発明したのは、ベルリン市のマーケティング担当者たちでした。目的は、市の文化施設に新たな客層を呼び込むことでした。普段それら

の施設を訪ねない地元の人々や観光客にもベルリンのミュージアムをもっと知ってもらいたいと考えていたのですが、多くの人は、休日を除いて、ミュージアムに行く機会がないです。そこで、複数の施設が一堂に会して、通常の開館時間外の深夜まで営業し、共同でマーケティングを行うことにして、このイベントが誕生しました。

第1回の成功を受けて、半年後の1997年8月、第2回「ミュージアムの長い夜」が行われ、参加館は27に増え、来場者は5万人を超えました。

もちろん、ベルリンの成功が見逃されるわけではなく、今では、ハンブルク、フランクフルト、ミュンヘンを皮切りに、ドイツのほとんどの大都市で同様のイベントが行われるようになりました。

ドイツだけでなく、1999年からオランダのアムステルダムでも「museum-n8」が、2002年からはフランスのパリでも同じようなイベントが、その他にも、世界の多くの都市で開催されています。2000年から加わったオーストリアでは、全国同時に「ミュージアムの長い夜」が開催されます。

私にとってこのイベントの良いところは、すべての施設が協力し、市や公共交通機関と一緒に、市民のためにイベントを企画していることです。美術品などを見るだけでなく、美術館の大理石の階段やデッキチェアに座って、周囲の雰囲気を楽しむこともできます。敷居が高そうなミュージアムでも気軽に入れるし、いつもは行けないたくさんの小さなミュージアムを回って、展覧会や特別プログラムを発見することもできます。ギャラリーホールでコンサートを聴いたり、ミュージアムの中でDJの音楽に合わせて踊るクラブの雰囲気を味わったりできる機会は他にないでしょう。



ギャラリーホールのコンサート (c) Katinka Schuett

学生時代、友達とさまざまな「ミュージアムの長い夜」に行きました。毎回、楽しい体験でした。皆さんも、ドイツに行ったら次の「Lange Nacht der Museen」のポスターを見かけたら、この夜をカレンダーに書き込むことをお勧めします！

ママパパ English サロン

市国際交流協会では、子ども連れの方も気軽に参加していただける英会話サロンを開催しています。ウィルペルトさんと、気軽に英会話を楽しんでみませんか？

■日時 11月24日(木) 午前10時～11時

■場所 薬師寺コミュニティセンター

■参加費 無料（ただし、参加者には市国際交流協会に入会していただきます。年会費1,000円）

■申し込み・問い合わせ先 市民協働推進課 ☎(32)8887